



きよくり news

CONTENTS

- ・日本思春期学会とともに
～継続は力なり～
- ・日本思春期学会に参加して
私のオフタイム
～お神輿ワッショイ！～



Muraguchi **Kiyo** Women's **Clinic**

日本思春期学会とともに

～継続は力なり クリニックの大切な歴史となって～

患者情報管理者 柴田 泰子



浅草での学会懇親会にて

日本思春期学会は、思春期に関する研究、知識の普及および関係事業の発展を図るために活動している団体です。1982（昭和57）年に発足し、第一回大会は鹿児島で開催されました。当時、仙台市立病院に赴任したばかりの村口院長は、学会に参加することで大いに啓発され、仙台市立病院に「思春期外来」を開設したそうです。1999年村口きよ女性クリニックを開院し、25周年を迎えましたが、第一回の鹿児島大会から開院後もほぼ毎年参加し続けてきました。

当院では、目の前の診療にとどまらず、個々の患者さんの背景や社会的問題を考え、「個人的なことは社会的なこと」という立場で診療活動を行って

います。日々の診療の中で感じたことに関するアンケート調査を行い、集計データと照らし合わせながら診療を振り返っています。

私も患者情報管理者としてクリニックのデータを集計分析し、院長や看護師とともにこれまで9回発表し、思いがけず2011年には優秀演題賞をいただきました。クリニックに就職した頃は、自分がいったい何をしたいのか分からずにボーッと生きていて、院長に「あなたも学会発表してみたら」と促されるまま発表するようになったことを思い出します。そこから意外なことに大学院修士課程に入学して統計を学び、クリニックのデータ分析をするようになりました。「きよくり」での23年間の中で人生が大きく変わり、今は自分のやりたいことに辿り着き、試行錯誤を繰り返しながらも楽しく過ごしています。

ほぼ毎年学会に参加していますが、時にはクリニックの旅行と重ねて伊勢神宮を参拝したり、鎌倉を散策したり、楽しいイベントにもなっていました。まさに北は北海道から、南は鹿児島まで、日本全国を訪れてきました。学会に参加すると丸2日間、会場で講演を聞き、ワークショップやシンポジウムに参加したりして過ごすのですが、全国から情熱あふれる会員の皆さんが集まっているので、大きな刺激を受けます。「若者のためにこんなにも熱い思いで行動している人達がいるのか」ということを知るだけでも自分達の在り方を見つめ直すことになるのです。看護部門による発表も

2回優秀演題候補として選ばれました。診療と併せてデータをまとめ、社会的な背景を調べ、考察し発表したりする中で、それぞれが問題意識を深め成長し、医療者としての自信と誇りを培ってきたと思います。

このような機会を与えてくれるクリニックは全国でもわずかであり、それは院長の懐の大きさです。途中、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン開催になったり、発表ができない年もありましたが、こうして四半世紀継続してきたことはクリニックの大切な歴史であり、まさに思春期学会とともに学び成長してこられたかと思えます。



宮崎での学会懇親会にて

日本思春期学会に参加して

～思春期支援が難しい時代となって できることから積み重ねていこう～

看護師主任 早坂 恵



8月23～24日に神戸市で開催された第43回日本思春期学会に参加しました。今回の学会のテーマは「**思春期の人々の力を信じ、健康を支援する**」です。

今も昔も「思春期」は誰もが通る道であり、経験するものです。遠い昔の自分自身を振り返った時、「繊細」「敏感」「不安」のイメージが真っ先に浮かびました。大切な時間であり、その後の人生にも関わる特別なものだということを改めて感じながら学会に参加しました。性教育、性行動、不登校、月経について、自分の時代にはなかったSNS、ヤングケアラー、プレコンセプションケア、LGBTQ+など様々な角度から、そして色々な立場から、思春期を見つめて理解し、どうすれば支援に繋がるかと努力されている内容で溢れていました。しかし、現状はとても厳しく、性教育一つを取ってみても、未だ制限やルールが立ちはだかり、時間も十分に取れず、理想とされる性教育とは程遠いのが実際のようなようです。

一方で、SNSは様々な性の情報で溢れ、どれが正しい情報かを判断する力が必要となっています。使い方を間違えてしまえば危険と隣り合わせです。その状況を見守る親は、携帯を持たなかった時代を生きる方も多く、今の時代を生きる思春期の子ども達のことを理解するのは本当に難しいと思います。性教育の現場では、基本的な性教育もままならない上に、時代の変化も急激であるため、更新のスピードも求められています。

近年における家族形態の変化、可視化されてきた性的思考やジェンダーアイデンティの多様性に応じた対応、少子化、プレコンセプションケアなどがそれにあたります。性教育の難しさを現場の方々の声を聴くことで知ることができました。そして同時に行き詰まり感と無力感も感じてしまいました。ですが、学会の最後に参加したワークショップで、LGBTQ+について長年にわたって研究・調査されている日高先生が、「何もなかったら変わらない」「変えたいと思うなら、繰り返し働きかけて行くしかない」ということを仰っていたのを聞き、「自分ができることを積み重ねていこう」という前向きな気持ちで学会を終えることができました。

産婦人科は女性が生涯にわたって関わる科です。一人の女性として、自分の経験や学んだことを活かしながら、患者様に関わらせていただきたいと改めて思いました。自身のアップデートも忘れずに…。

私のオフタイム ～お神輿ワッショイ！～

看護師 菊地香織



今年より神輿祭友会にお誘い頂き、県内外のお祭りや神社の祭事にて神輿渡御の御奉仕に参加しています。老若男女問わずお祭りを楽しむ、地域を盛り上げるという伝統に携われること、何よりも幼い頃から祭りっ子だった私は楽しくて仕方がありません。またお祭りの関係者の方々や様々な神輿会の方々のご縁がご縁を呼び、日々楽しく参加出来ている事に感謝です。どこかのお祭りで半纏姿の思いきり楽しんでいる私を見かけるかもしれません(^v^)

臨時休診

○ 年末年始のお休みは12月28日(土)の午後から1月5日(日)までになります。

編集後記

観測史上最も遅い猛暑日を記録した9月が過ぎ、秋の気配を感じる10月、みなさまいかがお過ごしでしょうか。美しい秋、美味しい秋、爽やかな秋を楽しんでください😊



発行元：村口きよ女性クリニック
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>
 e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp